

宗教は人類の精神文化の重要な構成要素として、特有の意義と深い影響とをもっています。

宗教は哲学と同様、人類の智慧の体現であり、知を愛する道程における人々の憧れ、追求、超越を描き出しています。そして、宗教の英知は、さらに信仰の光彩を備えることで、人間の魂のあらゆる方面からの探求と、時間と空間への洞察とを表現し、生きる自信と

## 「宗教の英知」で「東西の対話」を普遍化

卓 新平

「覚り」に瞬時に到達し、欲すると

ころも求める

「より高き自身へと」昇華する希望とを人間に与えています。この意味において、宗教の研究者とは、智慧の探求者であるばかりでなく、修道の体得者でもあらねばなりません。

宗教研究の中にあつて、「東洋の智慧」を特徴とする仏教は突出した地位を有しています。人々は仏教の英知の哲理に感嘆し、仏教を哲学の最高の境地を備えた

宗教、世俗的なものを超越した哲学とみなしています。

仏教には奥深く素晴らしい思想があり、論理がありません。そして、さらに人々を魅了するのは、「仏」はその「悟り」が蔵する内容によつて人々を導き、世俗の苦しみ、海から解脱させ、有情を覚らせ、衆生を導き、「悟り」に到達させて「仏」にする、という点にあります。思索と思考という「悟り」の修練を通して、最終的に

澄みきつた

ところもなく衆生を愛する、という、覚行円満な存在になることができるのです。したがつて、「仏」の悟りとは、やはり「天地自然の理（天道）」と「心禅」とをつなぎ、「心性」「悟道」を実現させる偉大な智慧であり、真実の覚醒なのです。

「覚者」は自ら世界・人生へと向かっていきます。したがつて、そこには「心から始まる」という「調和の

世界（和階世界）」があり、さらに「多くの因縁が和合すること（衆縁和合）」で成立する太平の時代を実現することができるとは、仏教の『菩提円覚』『寂滅空無』という境界は深遠なように見えて、実際には逆に現実の人生と非常に近く寄りそっており、さらにそれらの境界には「衆生を」あまねく救済する」という「慈悲」が備わっています。まさにこのように仏教の智慧を探求し体得することは、人々を「仏との」縁がない状態（無縁）」という絶望から脱却させ、「仏縁を追求する生き方（求縁）」から「縁に随って「智慧を体現していく」生き方（随縁）」へと転換し、安らかに存在する「縁在（Days in 現存在）」としての平常で穏やかな境界に到達させて、完全に新しい人生とその超越的価値を創り出すのです。

東洋哲学研究所は50年来、仏教の智慧の探求に尽力してこられました。そして『法華経』に焦点をあてて、深くその中に入り、奥深い哲理を探求し、隠された意義を明らかにすること、すなわち経の深義と真理を明らかにすることに、惜しみのない努力を費やし、また



中国社会科学院・世界宗教研究所と東洋哲学研究所の第4回共同シンポジウム（2009年10月13～14日）は、「現代社会と宗教」をテーマに開かれた（北京の中国社会科学院で）

多大な成果を残しておられます。このような仏教を中心とした宗教の智慧の研鑽が、東洋哲学研究所の研究上の特色と、人々から注目を集める学風を形成したのであり、こうして「東洋」の精神を体現してきておられるのであります。

さらに東洋哲学研究所は、創立者の池田大作先生の指導のもと、真剣に經典を読み真面目に学問をするばかりでなく、努めて実践し、「その英知を」大いに発揚して、仏教の哲理と智慧を世界平和、東西対話、各国家・各民族間の調和・共存という人類的偉業にまで広げて活用し、深く思索し、無量の功德を用いて、学术界と宗教界に広く影響を与え、社会を強く感化しています。池田大作先生と東洋哲学研究所の研究者の皆さんは長年、宗教の平和的理念を堅持し、宗教間、東西文明間の対話を積極的に推進し、これによって仏教の智慧の現代化・社会化・普遍化という目標を力を尽くして達成してこられました。

このような探求の過程において、貴研究所は長年にわたり、われわれ中国社会科学院・世界宗教研究所と

誠実に協力し、積極的に交流を進め、多くの学術的成果を取ってまいりました。私たちの交流は、伝統的な友好をより深いものにし、学術の繁栄と中日友好のために重要な貢献を果たしております。私どもの敬意と感謝を込めて、ここにこの一文を寄稿することにより、貴研究所創立50周年に対し、熱烈な祝賀の意を表したいと思います。それとともに、私たちの研究事業が、全員の努力の継続によって発展・興隆し、双方の研究員の学問が進展しますことを、また中日両国民の友好が末永く続きますことを念願いたします。

(たく しんぺい／中国社会科学院・世界宗教研究所所長)